

編 集 後 記

山形医学26巻2号をお届け致します。本号には、原著論文4編と研究会抄録1編が掲載されております。今回も望月名誉教授には英文の酸塩基平衡に関する論文をご投稿戴きました。厚く御礼申し上げます。また、学問に対する真摯な姿勢には、いつもながら敬服致します。他には看護学科より2編と第一内科より1編で、いずれも成人病あるいは加齢に関連した論文です。

個人的なことで恐縮ですが、私は不整脈があり第一内科にお世話になっている関係上、ポリフェノールの血小板凝集能に関する実験的研究を興味深く拝読致しました。私は機会飲酒とはほど遠い常習的飲酒者で、昨年などは或る頒布会からイタリア産赤ワインを毎月6本届けてもらっておりましたのに、足りずに月に4～5本のワインを買う始末でした。コース料理では肉料理には赤ワイン、魚料理には白ワインと相場が決まっています。しかし、私はもともと白ワインの上品な味はあまり好みではなく、魚料理でも赤ワインを飲みたい方なのですが、小林先生の論文を見て「やはりワインを飲むなら赤ワイン」との意を強くした次第です。(飲まないのが、体には一番良いのは解っていますが…)

先日の教授会で「山形医学」の投稿規定の変更が決まりました。近々開催の図書館運営会議を通して発効致しますが、主な変更点は①投稿の際のメディアが「フロッピーディスク」からフラッシュメモリ(USBメモリ)に変更になったことと、②著作権に関して投稿前に必要な許諾手続きを済ませておくように明記したことです。最近のラップトップ型パソコンにはフロッピーディスクのドライバーは付いていないものが多く、記憶メディアとしてはUSBメモリが最も汎用されているようですので、そのように変更致しました。二重投稿については、最近は「英文論文と同じ内容でも和文なら良いのではないか」という意見も出てきているようですが、先日私の関係する日本耳科学会の機関誌“Otology Japan”の編集会議で、他の英文誌に掲載された図の使い回しを理由に「reject」された論文が1編ありました。本誌の編集会議ではその様な事例は過去には無かったと思いますが、今後も無いとは限りませんので宜しくお願い致します。

編集委員長 青 柳 優(平成20年7月1日記)